



# 進路だより

第10号

web版

2025年2月7日発行

宮城県東松島高等学校進路指導部

## まずは向上に力点を

24年次年次主任

高校時代の私が過ごした年度末の今頃を振り返ってみました。1年の時は学校帰りに本屋で参考書を選ぶかマンガを立ち読みして過ごし、帰宅してすぐファミコンにハマリ、その後にはどうすれば勉強したことがすぐ分かるかを考えていました。当時は成績向上に力点を置きました。ふと思い立って、家庭学習の中で重要語句に挿絵やマンガを添えてダジャレや語呂合わせを取り入れるなど、今の私が時々生徒に教えていることを自分で試していました。中学3年生の頃に兄から理科の覚えにくい言葉にマンガを用いて教えられ、面白いどころか即座に思い出せたのがきっかけだったからです。2年になってからも生活や学習パターンは大きく変わらず(ファミコンは減ったかな?)に過ごしました。さすがに、マンガ学習は数学や物理等の計算関係には難しかったですが、古文の単語や英単語、世界史・地理にはそれなりの効果はありました。3年の時は大学へ一般入試に向けて過去の問題から傾向を探りつつ、これまでまとめたマンガ入りの学習ノートを試験開始直前まで活用し続けていました。

そこまでせずとも普通に勉強した方がよいのではないかという声が上がります。実際に数学や理科の計算については、簡単な計算を反復して応用には解法を丁寧に写し取って学習し、イメージとしてマンガを活用した方が効果的でした。しかし、この勉強法は楽しみながら創作する手間の中で身に付くため、大学の定期考査や就職後の資格の取得(小型船舶一級、危険物取扱乙4類)で時間配分を考えながら効果的に取り組みました。初めはこの勉強法で成績向上すればそれでよい気持ちしか私自身にはありませんでしたが、こうして自分の持ち味を生かして今日まで教員になって逆に生徒に教えることで継続できたのも理解できる仲間や大人の存在があったことに気づきます。私の場合はなるべく人を頼らないつもりでいましたが、結局のところ友達や親兄弟に始まり、担任の先生の他に信頼できる大人にこの勉強法をついつい喋ったりして、皆がその取り組みやひょうきんなマンガ内容に笑顔で応えてくれたことで自信がついて継続できたのです。皆さんも自分が今後自分にどのような向上を望むかを少し考えたら、ふだん接点がある先生や大人に声をかけてみませんか？



## 令和6年度進路状況です(1月31日現在)

卒業生数	進学								就職						その他	合計	
	四大		短大		専各		計	民間		公務員		自営・縁故		計			
	県内	県外	県内	県外	県内	県外		県内	県外	県内	県外	県内	県外				
男子	16	1	0	0	0	0	0	1	3	1	0	1	1	0	6	9	16
女子	17	2	1	0	0	1	0	4	5	3	0	0	0	0	8	5	17
合計	33	3	1	0	0	1	0	5	8	4	0	1	1	0	14	14	33

〔大学・短期大学〕 東北学院大学(経済学部経済学科) 宮城学院女子大学(学芸学部日本文学科)

日本大学(文理学部生命科学科)

〔専修学校・各種学校・その他〕 仙台総合ペット専門学校

〔公務員〕自衛隊一般曹候補生(海上)、自衛官候補生(海上)

〔民間事業所〕 マルヒ食品株式会社 宮城製粉株式会社 株式会社銀座仙台事業所 日本郵便株式会社

有限会社ケイアイファーム 株式会社R1000 株式会社エヌ・エス・シー 株式会社オルブロード

第一貨物株式会社 一般社団法人加美町スポーツ協会 社会福祉法人向陽会 株式会社サワ

## 進路を考えるとということ

進路指導部長

私が初めて進路指導部長になったのは、前任校に勤務していた2011年4月のことでした。震災で校舎は使えなくなり、700人を超える生徒たちは5月から3つの高校を間借りして、分散登校をすることになってしまいました。私も、ようやく開通した高速道路を使って県南のA高校に授業をするために通い、放課後は内陸のB高校にあった臨時の進路室に行って生徒と進路の話をして、午後5時になると進路室のサテライトを置いていた仙台に近いC高校に移動して、バスでD高校から帰ってくる生徒たちの進路指導をしてから帰るという生活をしばらく続けました。大変な状況でしたが、生徒たちは一生懸命に進路決定に向き合い、私たち教員も国内外からのたくさんの支援をいただきながら、何とか毎日を乗り切ろうともがいていました。

当時の進路活動で大変だったのは、学科ごとに登校する学校が異なっていたため、学年全体の指導や進路ガイダンスが開けないことでした。そこで、仙台駅前のビルの1フロアを借りて1日すべて進路の日を開催しました。進路ガイダンスや学年集会、進路相談など本来であれば時期ごとに行うことを1日に詰め込みました。また、もっと大変だったのは就職先となる事業所が被災により採用予定が立たないことでした。進路指導部員と学年の先生方が手分けをして会社訪問をして求人票を頂けるよう、生徒を採用していただけるようお願いをして回りました。埼玉県や東京都で行われる合同企業説明会にも出張して採用のお願いをして回りました。テレビや新聞などのメディアも活用しました。就職出陣式などのイベントを開催して、テレビで取り上げてもらうと大きな反響がありました。今思い返せば本当にいろいろなことをやってきたと思います。

進路を決めるといことは、生活の資金をどうやって得ていくか、その方法を決めることにつながります。少し大げさかもしれませんが、自立したこれからの人生を考えるスタートにもなります。だからこそ、生徒の皆さんにも保護者の皆様にも、私たち教員もみんなで真剣に進路のことを考えていかなければなりません。ありがたいことに震災のあったあの時からずっと進路指導に関わることができています。これまでの経験はこれからの生徒のためにかしていかなければならないと思っています。皆さん、一緒に進路活動を頑張っていきましょう。

## 今年度の振り返りは大切です

令和6年度もあと少しで終わります。生徒の皆さんには、ぜひ今年度の振り返りをしてもらいたいと思います。進路の手引きに「それぞれの年次でやっておきたいこと」という項目があります。皆さんが新しい年度に入る前に次のような点を点検してみてください。

- ◎ 今年度1年間の欠席日数は何日でしたか。
- ◎ 修得単位は予定通りでしたか。
- ◎ 評定平均はいくつでしたか。
- ◎ 卒業後の進路について、保護者やSAと話をしましたか。

これらは、卒業年次になって進学や就職を具体的に決める時に、重要になってきます。もしも、今年度なかなかうまくいかなかったという人がいれば、新年度の最初からこれらのことを意識して毎日を過ごしてほしいと思います。

進級という感覚があまりない単位制の高等学校では特に大切なことです。



令和6年度卒業後支援説明会より

## 進路相談に早すぎるということはありません

進路室には毎日たくさんの生徒が顔を出してくれます。進路相談に来てくれる生徒や大学進学に向けた勉強をしに来る生徒、弁当を食べに来たり、休憩をしに来る生徒もいます。私たち進路指導部は皆さんに進路室を前を向いて「さあ行こう」と思える場所にしてほしいです。「さあ、弁当も食べたし授業に行こう」とか「少し就職の話をしてスッキリした。さあ頑張ろう」みたいな場所を目指しています。

## 編集後記

2025年の最初の登校日は晴れて穏やかなスタートとなりました。生徒集会では、昨年の夏季休業期間に石巻専修大学との高大接続研究事業に参加した8名の生徒に単位が認定されました。自己を高めようとしている生徒たちの姿はやはりいいものです。今年も生徒たちが元気に高校生活を過ごしてほしいと感じました。

